

# 欧州での企業誘致等業務委託仕様書

## 1. 業務の名称と主な業務内容

### (1) 業務の名称

欧州での企業誘致等業務

### (2) 主な業務内容

#### ア) 企業誘致業務

誘致可能性のある企業のリスト作成、誘致に向けた面談設定

#### イ) 展示会出展業務

展示ブースの企画、運営等及び出展者のビジネスマッチング支援

## 2. 事業目的

先端技術を有する欧州企業の誘致と市内ものづくり企業の欧州での市場獲得に一体的に取り組み、神戸経済のグローバル化を促進する。

## 3. 業務概要

神戸市は欧州ビジネスオフィスを開設し、欧州企業の誘致、市内ものづくり企業の欧州での取引拡大等に取り組んでいる。本業務では、受託事業者として自己の法人名において、「4. 具体的な業務内容」に記載する業務を実施する。

## 4. 具体的な業務内容

### (1) 企業誘致業務

神戸市に欧州企業を誘致するため以下の業務を行う。

#### ① 誘致可能性のある企業のリスト作成

以下基準に合致する企業リストを作成する。(60社以上)

(基準)

- ・短期又は中期的に日本への直接投資に関心があり、西日本地域にオフィス開設の可能性がある企業
- ・従業員50名以上の欧州企業でグローバルに展開している
- ・生産性向上や新サービス導入等につながる技術、ノウハウを有する
- ・60社中5社は水素関連産業の企業であること

※これら基準を満たさないと神戸市が判断した場合、当該企業をリストから削除することがある。

(記載項目)

- ・企業概要（企業名、売上高、従業員数、ウェブサイト）
- ・コンタクト情報（対日投資に関わる担当者氏名、メールアドレス）
- ・事業内容、製品・サービスの概要、主な顧客
- ・海外展開戦略及び実際の展開状況
- ・対日直接投資の可能性に関するコメント（高い／低い確度評価を含む）
- ・技術またはサービスに対する評価コメント

②誘致に向けた面談の設定

直近1年以内に神戸にオフィスを開設する可能性が極めて高い企業と神戸市企業立地課との面談を設定する。（2社以上）

(2) 展示会出展業務

神戸市が募集・選定する市内企業等（8社を想定）の欧州での販路拡大を支援するため、欧州の展示会で以下の業務を行う。なお下記業務にかかる市内企業等との調整など一切の業務はすべて受託者が行うこととする。

①出展手続き等

展示会の出展申し込み、主催者との出展に関する調整、事務手続き（出展料の支払を含む）、連絡調整などを行う。

なお、出展先の展示会は10月23日、24日にドイツ・ハンブルクで開催されるHYDROGEN Technology EXPOを予定。（9m×6mのブースを確保。小間料は16,099EUR。小間料も展示会出展業務の予算額に含む。）

②展示ブースの企画、設計、設営、運営及び撤去

- ・別紙1ブース仕様に従い、出展ブースの企画、装飾デザイン等の設計、装飾事業者への発注、施工等を行うこと。
- ・展示品に関する市内企業等出展者（神戸市が募集・選定、以下出展者）との調整を行うこと。
- ・展示会期間中はブースを適切に運営し、展示会終了後は撤去すること。

なお、作成物の破棄については、神戸市と別途協議すること。

- ・出展者から展示品の輸送に関する相談があった場合は、適切な事業者の紹介や課題解決にかかる相談に応じること。（出展者の展示品等の輸送は出展者の責任によって行われ、費用は出展者が負担する）

③出展者事前説明会の開催（7月上旬を想定）

出展概要（開催概要、ブース配置等）、展示ブースのレイアウト詳細、想定される渡航スケジュール、展示品の輸送に関する注意事項などを記載した資料を作成し、出展者説明会を実施する（オンライン開催）。

#### ④ビジネスマッチング

以下手順により、出展者の製品・サービスの特長を把握し、出展に先立って出展者の顧客または協業先となり得る欧州企業を調査し、会期中の商談を促進する。

（ア）出展者からの聴取による製品・サービスの把握（オンライン面談）

（イ）出展者情報をまとめたブース紹介資料の作成（1社1ページ）

（ウ）出展者の製品・サービスの提供先または出展者との協業が期待できる欧州企業のリストの作成（出展者1社あたり30社以上）

（記載項目）

・企業概要（企業名、売上高、従業員数、ウェブサイト）

・事業内容、製品・サービスの概要、主な顧客

（エ）（ウ）で作成したリストを用いて出展者と協議のうえ、出展者1社あたり3件以上の商談が行えるよう、商談アポイントを調整する。

（オ）通訳者を2名以上配置し、会期中の出展者の商談をサポートする。

#### ⑤次回展示会の調査、出展手続きのサポート

神戸市からの依頼に基づき、次年度に出展する展示会の調査（規模、出展企業の状況、出展料など）及び出展手続き（申し込み手続き、金額交渉など）の補助を行う。

### （3）本市との打ち合わせ

神戸市企業立地課及び欧州ビジネスオフィス担当者との連携を密にして業務にあたり、進捗確認のため必要に応じて随時、同担当者との打ち合わせを行う。

## 5. 実施期間及び成果品の提出について

実施期間は契約日から2025年（令和7年）2月28日までとし、実施期限及び各成果の提出期限は以下の通りとする。なお、成果物はすべて日本語で作成し、神戸市企業立地課および欧州ビジネスオフィスへ提出すること。（2）については、神戸市工業課にも併せて提出すること。

### （1）企業誘致業務について

①誘致可能性のある企業のリスト（60社以上）

様式任意で2024年（令和6年）9月30日までに提出する。

但し、水素関連産業の企業情報は8月31日までに一旦提出すること。

②誘致に向けた面談の設定

面談を設定する企業について、別紙2企業レポート及び企業概要資料を2024年（令和6年）12月16日までに提出のうえ、2025年（令和7年）2月21日までに面談を設定する。

（2）展示会出展業務について

①出展者向けの企業リスト（出展者1社あたり30社以上）

様式任意で2024年（令和6年）8月31日までに提出する。

②報告書

4.（2）④（工）の商談設定状況の報告を会期終了後速やかに提出する。

（3）業務完了報告書

業務終了後2週間以内に、事業費の支出明細、業務内容の履行結果・成果・次年度以降の活動に対する提言等をまとめた業務完了報告書（様式任意）を提出する。

6. 委託料の支払い

活動状況を確認のうえ、請求書受領後1か月以内を目途に、年3回に分けて受託者の指定する口座に振り込む。

・前金払：展示会にかかる費用等の一部として契約金額の30%を請求書受領後に速やかに支払い。

・第1回支払い：誘致対可能性のある企業リストの提出確認後、契約金額の35%を支払い。

・第2回支払い：業務完了報告書の確認後、35%を支払い。

※委託料は円建てで支払う。

※海外送金手数料は神戸市が負担する。

7. 留意事項

（1）常に神戸市との連絡を密にして業務にあたること。

（2）本業務の実施に当たっては、関係法令等を十分に遵守すること。

- (3) 本仕様書に定めのない事項及び業務遂行上疑義が生じた場合は、その都度、神戸市と協議の上、対応すること。
- (4) 本業務によって知り得た情報及び個人情報、通常秘密とされる企業情報をこの事業の目的外に使用しないこと。なお、委託期間終了後も同様とする。
- (5) 本業務の実施にあたって、次の項目に関する費用は受託者の負担とする。
  - ・業務上、受託者の不注意により生じた費用
  - ・業務の実施にあたり、受託者が第三者に損害を及ぼした場合の費用
- (6) 本業務の実施にあたり必要な手続き及び届出等は受託者において行うものとする。
- (7) 本業務の実施の際に著作権等の知的財産権が生じた場合は、原則として委託者に帰属するものとする。
- (8) 契約締結後、契約を履行しないとき又はその見込みがないとき、契約上の義務を履行しないときその他この契約に違反したときには、契約を解除することがある。

## 別紙1 ブース仕様

### 1. 全体デザイン

- ・洗練された港町である神戸の都市イメージを反映した全体に統一感のあるデザインとし、来場者が遠方から容易に視認できる場所に「KOBE」「JAPAN」などの文字や、市のロゴ及び日本国旗をデザインに取り入れること。

(参考) 神戸市ロゴ



### 2. 壁面デザイン

- ・壁面には「神戸水素スマートシティ構想」の取り組みを紹介するグラフィックを配置すること（別添「神戸市壁面デザイン案」参照）。グラフィックデータは神戸市が作成し、受託者にデータを提供する。（グラフィックの印刷・貼付にかかる費用は委託料に含む）
- ・パネルを照らすためのスポットライトを設置すること。

### 3. 大型ディスプレイ

- ・PR動画を放映する大型ディスプレイ（壁掛け、50インチ程度）を1つ設置すること。

### 4. 商談用スペース

- ・最低1か所以上のミーティングセット（テーブル1つ、椅子2つ）を設けること。
- ・来場者向けに飲料、お菓子等を準備すること。

### 5. バックヤード

- ・ブース内にバックヤードを1つ設置すること。バックヤードには施錠可能な扉を付けること。バックヤードには説明員の荷物や運搬用スーツケースを入れることを想定している。
- ・バックヤード内に下記備品を設置すること。
  - 荷物棚
  - 冷蔵庫（小型）
  - 飲料水、紙コップ
  - コーヒーサーバー（コーヒー、クリーム、砂糖）
  - 掃除機
  - 電源

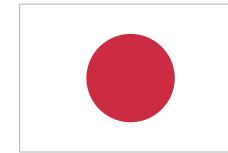
## 6. 各社展示スペース（8社想定）

- ・各社展示スペースには、社名表示板、展示台（製品および資料用。下部に施錠可能な扉をつけること）、スポットライト、製品説明ポスター等が掲示できるスペース（A1サイズ以上）を設けること。
- ・上記に関連し、各社からブースのグラフィック製作依頼があった場合は、各社が作成したデザインデータをもとに受託者が印刷・貼付を行うこと。ただし、製作にかかる費用は受託者が各社に請求することとする。
- ・各社の展示スペースとは別に、神戸市の施策パンフレットを掲示する展示台（下部に施錠可能な扉をつけること）を設けること。

## 7. カーペット

- ・フロアにはパンチカーペットを全面に使用すること。

# Green Innovation



## Supporting Demonstration Projects That Set the Pace for a Hydrogen Energy-Based Society

Two important demonstration projects are underway in Kobe in order to achieve a hydrogen energy-based society.

**Demonstration Project to Build A Hydrogen Supply Chain, a project subsidized by Japan's NEDO (New Energy and Industrial Technology Development Organization)**

This demonstration project is designed to build a supply chain that converts hydrogen gas into liquefied hydrogen for supply worldwide.



©HYSTRA

**Hydrogen Cogeneration System (CGS) Demonstration Project, a NEDO-subsidized project**

This demonstration project is designed to generate electricity from hydrogen gas for supplying electricity and heat.

### Support from Kobe City



Field support



Construction of public wharves



Awareness building for improving social acceptability



©HYSTRA



©HYSTRA

### Support from Kobe City



Field support



Coordination with energy supply destination



Awareness building for improving social acceptability



©Kawasaki Heavy Industries, Ltd



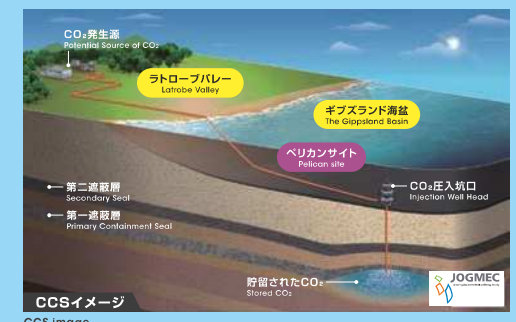
©Kawasaki Heavy Industries, Ltd

## Securing Clean Hydrogen at Low Cost and in Large Volumes



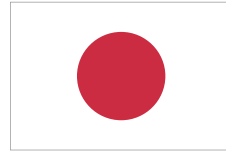
©HYSTRA

Making a switch from CO<sub>2</sub>-emitting fossil fuels to clean hydrogen requires large volumes of low-cost hydrogen that emits no CO<sub>2</sub> into the atmosphere. Accordingly, technological innovation is essential for hydrogen production, delivery, storage, and use. Development is underway of the project for blue hydrogen, in which CO<sub>2</sub> generated during the hydrogen production process is captured and stored deep underground so as not to be emitted into the atmosphere.



CCSイメージ





# Mobility Shift from Fossil Fuels to Hydrogen



Kobe City's efforts are underway to encourage the shift from conventional vehicles commonly powered by fossil fuels, such as gasoline, to environmentally-friendly electric vehicles (EV) or fuel cell vehicles (FCV).



©2023 Air Liquide Japan

## Kobe City's initiatives



Introduction of fuel cell buses to the Kobe City Transportation Bureau



Subsidies for the purchase of clean energy vehicles, including FCVs



Subsidies for the installation of energy supply facilities, including hydrogen stations

# Communicating the Appeal of Hydrogen



With a view to fostering the human resources needed for the growth of the hydrogen industry, Kobe City has been organizing workshops mainly targeting younger generations and disseminating information intended for children.

## Kobe City's initiatives



Organization of FCV test-drive events



Organization of workshops for high school students regarding hydrogen utilization technologies



Organization of hydrogen energy hands-on events for families



# Working in Global Partnership to Achieve a Hydrogen Energy-Based Society



©Esbjerg Municipality

The City of Kobe signed a memorandum of understanding (MoU) with the City of Aberdeen in the UK to work collaboratively on hydrogen and renewable energy projects. And at a COP27-related event in 2022, a joint proposal by Aberdeen and Kobe was selected for H2 Twin Cities, an initiative through which global hydrogen-based partnerships are created between paired cities.

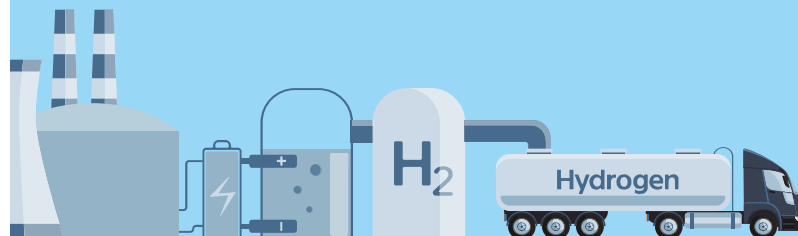


©Esbjerg Municipality

To advance its carbon neutrality efforts, the Port of Kobe signed a MoU for port decarbonization with the Port of Long Beach in California, which has been undertaking world-leading initiatives.



©Esbjerg Municipality





## Green Innovation

Kobe City is looking to further enhance its attractiveness and develop into a city that enables its residents to continue to lead comfortable lives in the future.

This endeavor requires us to transform ourselves so as to live sustainably with net-zero CO<sub>2</sub> emissions, and we all need to work together in taking on the challenge of this new lifestyle.

Since hydrogen is regarded as indispensable for building a CO<sub>2</sub> emissions-free, carbon-neutral society, its adoption is progressing in various fields.

Kobe City, in partnership with many businesses, has been striving to realize a carbon-neutral society with the use of hydrogen.

## 2050 Carbon Neutral

Kobe City, joined by businesses engaging in green innovation, aims to become carbon neutral by 2050.

## Establishing the Port of Kobe as a Carbon-Neutral Port



Kobe is Japan's leading port city. Serving as Kobe's industrial base and an international logistics hub, the Port of Kobe is aiming to become a CO<sub>2</sub> emissions-free, carbon-neutral port.

### Carbon-Neutral Port (CNP) initiatives at the Port of Kobe

- Attraction of a hydrogen station in preparation for heavy demand for hydrogen
- Adoption of transport vehicle technology, such as tractor heads
- Installation of fuel cells into cargo handling equipment at the port
- Development of cold ironing facilities

